

地域医療連携特論

Advanced Course of Community Medical and Dental Collaboration

キーワード

- ① 地域歯科医療連携
- ② 医歯学連携
- ③ 訪問診療
- ④ 在宅要介護高齢者
- ⑤ 地域包括ケアシステム

授業概要

重篤な全身疾患のために要介護となった患者および高齢者では、自立して十分な口腔機能管理が行うことが困難なため、誤嚥性肺炎、感染性心内膜炎等の重症合併症が発症しやすくなる。在宅要介護高齢者の口腔機能管理を行うには、歯科医療従事者のみならず医療・福祉・行政関係者等の協力のもと、定期的な訪問診療を中心とした地域歯科医療支援の構築が不可欠である。本講義では、在宅要介護高齢者の口腔機能管理および地域医療連携について、高齢者歯科学および麻酔科学等を専門とする教員が、それぞれの視点から専門的な解説を行うとともに、論文講読および議論を通して専門的な知識・態度・技能を修得することを目標とする。

授業科目の学修目標

超高齢社会においては、地域包括ケアシステムの理解に基づいて、病診連携や多職種連携による歯科医療を実践することが重要である。現在この分野は発展途上であり、国からは各地域に即した体制を構築することが求められている。本講義を通じて現在までに得られている国内および国際的な知見を整理・修得し、地域の実態に即したシステムを立案できる能力を身につけることを目標とする。

授業計画

- ① 在宅医療の現状・課題および政策 7コマ 森本佳成
- ② 在宅医療と多職種連携の普及のためのシステム構築 7コマ 森本佳成
(柏プロジェクトからみえるもの)
- ③ 地域包括ケアシステムに基づく歯科医療・口腔機能管理の進歩 8コマ 森本佳成
- ④ フレイルから見る認知症患者の歯科医学研究 8コマ 森本佳成

教科書および参考書

- ① 東京大学高齢社会総合研究機構：地域包括ケアのすすめ：在宅医療推進のための多職種連携の試み、2014年、東京大学出版会
- ② 岡田晋吾，田城孝雄：地域医療連携・多職種連携（スーパー総合医）、2015年、中山書店

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

授業計画の各項目では、すでに修得した地域包括ケアシステムに関する基礎的知識を土台にして、関連論文を批判的に熟読し、各項目の研究手法および理論的背景を議論することを通して、より高度な知識の理解が求められる。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 在宅医療の現状・課題および政策について説明できる
- ② 在宅医療と多職種連携の普及のためのシステム構築について説明できる
- ③ 地域包括ケアシステムに基づく歯科医療・口腔機能管理の進歩について説明できる
- ④ 認知症とフレイル・オーラルフレイルとの関連についての研究トレンドを説明できる

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	その他
30%	0%	0%	40%	0%	30%	0%

評価の要点

- ・試験は、授業計画で行った講義の知識の理解度を判定する。1回30%
- ・成果発表は、①～④の中から各項目について成果を発表する。10%×4回=40%
- ・口頭試問は、授業終了後毎行い、知識の理解度を判定する。1%×30回=30%

理想的な達成レベルの目安

地域医療連携特論の理想的な達成レベルは70%以上とする。